

1 年 次 生

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	オリジナル作品 I	奥田 祐

科目概要

この授業では、楽典基礎、作詞、作曲などアーティストとして必要になる様々な要素や、今後オリジナル楽曲を作って行く為の土台となる知識・スキルを幅広く身に付けていきます。

到達目標

春学期はまず、基礎の楽典、譜面の書き方、コード弾き練習などを重点的に勉強した後、学期末には授業内に制作したオリジナル楽曲(断片)を提出してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	1年の授業予定について
第2回	楽典基礎(導入)・作詞(導入)	音名、変化記号などを覚えましょう。 作詞実習
第3回	楽典基礎(2)・メロディ作り1	リズムの書き方を覚えましょう。 メロディを作ってみましょう。
第4回	コードネーム1・メロディ作り2	コードネーム(トライアド)について 作ったメロディを楽譜にしてみましょう。
第5回	コードネーム2・メロディ作り3	コードネーム(トライアド)について 作ったメロディにコードを付けてみましょう。
第6回	メジャースケール・弾き語り練習	メジャースケールと調号について 課題曲の弾き語りにトライします。
第7回	弾き語りテスト	課題曲を弾き語り 演奏テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%

試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。
楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	五度圏・作詞練習	メジャー五度圏について 作詞を試みましょう。
第2回	ダイアトニック1	ダイアトニックコード表(トライアド)作り
第3回	コード付け1・オリジナル曲作り	1クォーターに創作したメロディにコード付けしてみます。 オリジナル曲作りを始めます。
第4回	コードワーク・オリジナル曲作り	コードプログレッションを学びます。 オリジナル曲作りを続けます。
第5回	歌詞構成分析・オリジナル曲作り	既存曲の歌詞の構成を分析してみましょう オリジナル曲作りを続けます。
第6回	オンコード・オリジナル曲作り	オンコードについて学びます。 オリジナル曲作りを続けます。
第7回	オリジナル曲作り	オリジナル曲作りを続けます。
第8回	オリジナル曲発表	オリジナル曲(断片)を歌って発表。 作成したメロディ譜を提出。

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%

試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。
楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	オリジナル作品Ⅱ	奥田 祐

科目概要

この授業では、楽典基礎、作詞、作曲などアーティストとして必要になる様々な要素や、今後オリジナル楽曲を作って行く為の土台となる知識・スキルを幅広く身に付けていきます。

到達目標

秋学期は、移調の知識、コードネーム応用、ダイアトニックなど、前期に比べより実践的な内容を勉強した後、学期末には授業内に制作したオリジナル楽曲(1コーラスまたはフルコーラス)を提出してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードネーム2・オリジナル曲作り	セブンスコードについて学びます。 オリジナル曲作り(2曲目)を始めます。
第2回	マイナースケール3種・オリジナル曲作り	マイナースケール3種類を解説します。 オリジナル曲作りを続けます。
第3回	移調解説・オリジナル曲作り	移調のやり方を解説します。 オリジナル曲作りを続けます。
第4回	移調実習・オリジナル曲作り	任意の弾き語り課題曲をCメジャーに移調 オリジナル曲作りを続けます。
第5回	弾き語り・オリジナル曲作り	任意の課題曲をCメジャーに直して弾き語り練習 オリジナル曲作りを続けます。
第6回	楽曲構成&コード分析・オリジナル曲作り	任意の弾き語り課題曲を分析 オリジナル曲作りを続けます。
第7回	弾き語りテスト・オリジナル曲提出	任意の既存曲を弾き語り 演奏テスト。 オリジナル曲の譜面を提出。

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%
試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。
楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニック2・オリジナル曲作り	7thコードの復習と、ダイアトニック表(セブンス)作り。 オリジナル曲作り(Ⅲクォーターの続き/3曲目)を始めます。
第2回	コード付け2・オリジナル曲作り	コード付け課題にトライします。 オリジナル曲作りを続けます。
第3回	スコアの書き方・オリジナル曲作り	メロディ譜、バンド譜の書き方について オリジナル曲作りを続けます。
第4回	コードネーム3・オリジナル曲作り	sus4、dim7、6th、add9について オリジナル曲作りを続けます。
第5回	オリジナル曲作り	オリジナル曲作りを続けます。
第6回	オリジナル曲作り	オリジナル曲作りを続けます。
第7回	オリジナル曲作り	オリジナル曲作りを続けます。
第8回	オリジナル曲発表	オリジナル曲(1コーラスまたはフルコーラス)を歌って発表。 作成したメロディ譜を提出。

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%
試験結果だけではなく、進度や出席点を重視します。
楽器経験などは無くてもしっかりと理解出来るように進めますので、積極的に取り組んでください。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	オリジナル作品 I	桑村達人

科目概要

ピアノの弾き語りの基礎を身に付け、自分で詞・曲を創作する楽しさを体感します。希望があれば(後期からは)ギター弾き語りにも対応します。

到達目標

まずは鍵盤に馴染みつつ歌えるようになること、1年の終わり迄にはオリジナル楽曲を発表出来るようになることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1年間のスタート	オリエンテーション、自己紹介、まずは鍵盤に触れてみる
第2回	音の名前を知ろう	音名、両手の役割、課題曲1練習
第3回	コードのしくみ1	トライアド、スケールについて、聴音、課題曲1練習
第4回	コードのしくみ2	基本的なコードのパリエーション、課題曲1練習
第5回	オリジナルを創るにあたって	記録方法を身に付ける(メロディー譜、コード譜)課題曲1練習
第6回	メロディーを創作	任意の言葉にメロディーを付けてみる、課題曲1練習
第7回	テスト	課題曲1ピアノ弾き歌い
クォーター末試験評価方法		
出席50% 平常点20% 試験30%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌について考える	自分が好きで影響を受けた歌を発表、自分に取って良い歌とは?課題曲2練習
第2回	コードのしくみ3	6th, sus4, 7thについて、課題曲2練習
第3回	弾き歌いのコツについて	弾き歌いのメカニズムについて考える、課題曲2練習
第4回	コードのしくみ4	ダイアトニックコードについて、課題曲2練習
第5回	メロディーを創作	任意の曲のブランク部分にメロディーを作ってみる、課題曲2練習
第6回	歌詞と創作	任意の曲のブランク部分に歌詞を作ってみる、課題曲2練習
第7回	よいメロディーとは	歌ものに於けるメロディーの構造について研究、課題曲2弾き歌い練習
第8回	テスト	1.課題曲ピアノ弾き歌い2.オリジナル(出来た者のみ)3.任意コード押さえ
学期末試験評価方法		
出席50% 平常点20% 試験30%		

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	オリジナル作品Ⅱ	桑村達人

科目概要

基礎が固まったら、自分の武器、長所はどこにあるのか試行錯誤の中から見つけ出し、そこを押し出しアピールする術を身につけて下さい。きっと将来の自分に取って宝物となるようなオリジナル作品が生まれるはずですよ。

到達目標

自分なりの弾き歌いのスタイルを見つける、音をある程度自由に扱えるようになる

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽のしくみ1	ベース音を聞き分ける、曲のキーについて考える、オリジナル曲創作、課題曲3練習
第2回	音楽のしくみ2	楽曲の構成について考える、オリジナル曲創作、課題曲3練習
第3回	コードのしくみ5	9thについて、スケールについて再確認、グループ創作、課題曲3練習
第4回	歌詞 テーマの絞り込みについて	自分が感銘を受けた歌詞について発表考察、課題曲3練習
第5回	弾き歌いのコツについて	コードを自在に転回させてみる、正しいリズムで弾き歌えるようにする、オリジナル創作
第6回	標題創作1	題に沿ってグループに分かれ創作する、課題曲3練習
第7回	テスト	1.課題曲弾き歌い2.オリジナル(出来たもののみ)3.メジャースケール基本キーで弾く

クォーター末試験評価方法

出席40% 平常点20% 試験40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	標題創作2	題に沿ってグループに分かれ創作、個々のオリジナル創作、自選曲1練習
第2回	転調について	転調のメカニズムについて考える、自選曲練習、オリジナル創作
第3回	コードのしくみ6	童謡聴音～コードを付けてみる、ダイアニックコードについておさらい、自選曲練習
第4回	耳コピー	任意曲を耳コピーしてみる、曲サイズ取り方について、オリジナル創作
第5回	標題創作3	グループで協力して作った曲を仕上げ分担してパフォーマンスする、自選曲練習
第6回	コード進行のバリエーション	任意の定型コードにメロディーを創作してみる、自分の好きなコード進行にメロディーを付けてみる、オリジナル創作
第7回	曲のブラッシュアップ 構成について	自作曲の構成について洗い直す、評価しあう、自選曲練習
第8回	テスト	1.オリジナル完成版披露2.自選カバー曲弾き歌い3.指定コード押さえ

学期末試験評価方法

出席40% 平常点20% 試験40%

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	オリジナル作品 I	小池 道昭

科目概要

好きな音楽は何かと聞かれても、意外とすぐ答えられないものです。ただ、いろんな音楽や今まで知らなかった音楽のしぐみを知る事が本当に好きな音楽を見つけるきっかけになるかもしれません。好きなものが見つければそこには自分をさぐるヒントが隠されてるはず。自分にしかないオリジナルを見つけましょう。

到達目標

今まで知らなかった知識を知り、少しずつでも曲作りの仕方を覚えていく過程で、社会に出ても必要とされる想像する力を身に付けて欲しいと思います。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	好きな音楽	自己紹介をしながら、個々の好きな音楽をリサーチします。
第2回	音楽を聞こう	いろんなジャンルの代表的な曲を聞いて、特徴etc.を話し合います。
第3回	楽譜のきまり	調号、音符、小節など楽譜の決まり事を学び、楽譜の基本的な読み方、書き方を覚えます。
第4回	歌詞を書いてみよう	歌詞を書いてみて、きっかけになった感情が歌詞に表現できてるか、初期衝動を忘れてないかをチェックします。
第5回	曲作り 1	出来ないと言う先入観を持たずに、鼻歌・歌詞など得意な事から曲作りを始めてみます。
第6回	曲作り 2	コードを付けてあげるといっぱしの曲になる事を実感してもらい、曲作りのハードルを下げていきます。
第7回	テスト	応答形式の質問等で、課題の理解度をチェックします。

クォーター末試験評価方法

出席40% 平常点30% 試験30%
出席及び取り組む姿勢を重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ジャンルによる違い	いろんなジャンルの曲を分析して、ジャンルによる違い・特長をつかんでいきます。
第2回	メロディーの特徴	好きな曲を自分のものにしていくと個性につながりやすいので、自分の好きな曲を分析して、メロディーの特徴を把握します。
第3回	洋楽研究 1	日本で活躍しているシンガーの中にもルーツは洋楽というシンガーは多いです。ポピュラー音楽のルーツを学びます。
第4回	洋楽研究 2	名曲と呼ばれる曲を聞いて、感動を呼ぶ秘訣を探っていきます。
第5回	楽器研究	楽器の特性を学び、編曲も少し勉強していきます。
第6回	歌唱指導	声はヴォーカリストの最大の武器なので、声を伸ばすことで作曲能力が上がる事を知っていきます。
第7回	伴奏に合わせて歌う	生の演奏で歌ってみて、調和・リズムの大切さを知っていきます。
第8回	テスト	自作曲又はカバー曲を伴奏もしくは弾き語りで歌います。

学期末試験評価方法

出席40% 平常点30% 試験30%
出席及び取り組む姿勢を重視します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	オリジナル作品Ⅱ	小池 道昭

科目概要

楽器に触れる、とりわけ弾き語りに取り組む事は、作曲をより身近なものにしてくれる絶好の方法だと思います。楽器に触れる事で、ただの知識が個性を引き出すツールに変わっていきます。
億劫がらずに挑んでみましょう。きっと新たな自分を発見出来るはずです。

到達目標

どんな仕事や作業でも、最後までやり遂げるには根気が必要です。音楽作品制作という作業を通して、最後までやり遂げる根気強さが身に付くようにしたいと思います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードについて	コードとは何かを解説し、コードの表記の仕方etc.を学びます。
第2回	ダイアトニックコード	ほとんどの曲はダイアトニックコードが中心で出来てることを知り、その仕組みを知っていきます。
第3回	コードを弾いてみよう	まずはコードの基本であるトライアド(三和音)を弾いて覚えさせます。
第4回	リズムについて	音符、休符、タイetc. のリズムにつながる基本を復習し、アフタービート、シンコペーションなどのリズム表現を知っていきます。
第5回	弾き語り 1	コードを知識から自分のものにする為には、弾き語りをやってみるのが早道です。まずはピアノの弾き語りからトライします。
第6回	弾き語り 2	歌が良くなれば作曲力も上がるので、作詞・作曲だけでなく、ヴォーカル力も上げていきます。
第7回	テスト	自作曲又はカバー曲を弾き語りで歌います。

クォーター末試験評価方法

出席40% 平常点30% 試験30%
出席及び取り組む姿勢を重視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	耳コピ	調を判別しベースの音をよく聞いて、耳コピをマスターしていきます。
第2回	メロディー譜	視覚的に見ると分かることがたくさんあるので、簡単なメロディー譜の書き方を覚えさせます。
第3回	楽曲制作 1 (コード)	コードには鼻歌を音楽に変える力があります。考えたメロディーにコードを付けて実感していきます。
第4回	楽曲制作 2 (リズム)	リズムが分かると曲も歌も変わってきます。曲全体のリズムを考え各セクションのリズムも決めていきます。
第5回	楽曲制作 3 (歌詞)	歌詞とメロディーの合い方で曲が良くなる事もあります。歌詞を見直し、メロディーとのはまりをチェックします。
第6回	楽曲制作 4 (メロ譜)	メロディーを譜面に書くと、なぜか曲や歌が良くなってきます。メロディー譜を書いてもう一度全体を見直します。
第7回	リハーサル	テストに向けて譜面を最終チェックし、リハーサルを行います。
第8回	テスト	自作したオリジナル曲を発表します。

学期末試験評価方法

出席40% 平常点30% 試験30%
出席及び取り組む姿勢、そろそろ成果も重視します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	オリジナル作品 I	福富英明

科目概要

この授業では作詞作曲の楽しさに目覚めてもらう事と音楽的な耳を養うことが大きな目的です。ちなみに良い曲というのは誰が決めるのか？自分で決めます。自分にとって良い曲。すなわち自分が今まで感動してきた曲をしっかり掘り下げる事が、いわゆるシンガーソングライターのオリジナリティーを確立していきます。キーボードでコードを弾けるようになり、大好きな曲を口ずさみながら「うわーすごいよ。この曲！」と楽しめるようになれば楽曲作りの物差しが出来ます。より深く音楽を楽しめるようになることを約束します。

到達目標

オリジナル作品制作に必要なコードの知識や簡単な理論を学び、弾き語りを楽しみながら、より音楽的になっていくことを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードに親しむ	メジャーコードとマイナーコードの仕組みを理解。
第2回	コードに親しむ	テンション(M7、7)の理解。好きな曲の譜面を持参。
第3回	コードに親しむ	テンション(6)とオンコードの理解。
第4回	コードに親しむ	LET IT BEの弾き語り練習。課題曲(全力少年)の歌唱。持参曲をKEY=Cにしてみる。
第5回	コードに親しむ	LET IT BEの弾き語り練習。課題曲(全力少年)のコード弾き。持参曲の弾き語り。
第6回	コードに親しむ	KEYについての説明。課題曲をKEY=Cにしてみる。LETITBEおよび持参曲の弾き語り練習。
第7回	テスト	LET ITBEと持参曲の弾き語り。コードの理解

クォーター末試験評価方法

出席30%授業態度40%試験30%LET IT BEおよび持参曲の弾き語りがゆっくりでも良いから出来るようになってきているか。メジャーコードマイナーコードの理解がしっかり出来たかを試験で見ます。出来なかった場合はその後の授業で個別に見ていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	自分の好きな歌詞を5つノートに書いてくる。それについて考察する。
第2回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	課題曲(close to you)の歌唱。詩を3つ書いてくる。持参曲の練習。
第3回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	天体観測(バンブオブチキン)を聞いて歌詞について考察する。情景描写について。好きな食べ物について詩を書いてみる。ダイアトニックコードの説明。
第4回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	遠いまぼろし(ユーマン)を聞いて歌詞について考察する。テンションについて。
第5回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	夜空のむこう(スガシカオ)を聞いて考察する。テンション、ダイアトニック、KEYについての復習。
第6回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	ONE MORE TIME ONE MORE NIGHT(山崎まさよし)を聞いて考察する。自作詩にメロディーを乗せてみる。
第7回	歌詞について。もっと弾き語りを好きになる。	歌舞伎町の女王(椎名林檎)を聞いて考察する。オリジナルの作成。
第8回	テスト	持参曲の弾き語りとオリジナルの発表

学期末試験評価方法

出席30%授業態度40%試験30%課題曲と持参曲の弾き語りとオリジナル曲の発表をしてもらいます。まずは弾き語りを楽しんでもらう事を最優先します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	オリジナル作品Ⅱ	福富英明

科目概要

実際に決められた歌詞とコード進行でメロディーを作ってみたり、スタンダードになっている曲を弾き語りしたりしてそのマジックにふれます。良いメロディーというのはあります。しかしポップスの場合バランス感覚も必要です。そこらへんの感覚も磨けたらと思ってます。もちろんフルコーラスで曲が出来そうな生徒には添削していきます。同時進行で好きな曲もどんどん弾き語りしていきます。

到達目標

ワンコーラスでもいいのでオリジナルを作ることを目標とします。但しオリジナルに興味が無い学生はカバー曲を増やすなどして音楽的素養を深めていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	今までの復習	コードに関する知識を総復習します。課題曲(奏)の弾き語り
第2回	メロディー作り	課題曲の弾き語り。与えられた歌詞とコード進行でメロディー作り。
第3回	メロディー作り	課題曲の弾き語り。与えられた歌詞とコード進行でメロディー作り。
第4回	メロディー作り	KEYをみつけることについて。課題曲の弾き語り。与えられた歌詞とコード進行でメロディー作り。
第5回	メロディー作り	KEYをみつけることについて。課題曲の弾き語り。与えられた歌詞とコード進行でメロディー作り。
第6回	メロディー作り	KEYをみつけることについて。課題曲の弾き語り。与えられた歌詞とコード進行でメロディー作り。
第7回	メロディー作り	課題曲の弾き語り、オリジナル曲の発表

クォーター末試験評価方法

出席30%授業態度40%試験30%課題曲の弾き語りとオリジナル曲の発表。オリジナルが出来なかった場合は持参曲でも構いません。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第2回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第3回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	天体観測(バンブオブチキン)を聞いて歌詞について考察する。情景描写について。好きな食べ物について詩を書いてみる。ダイアトニックコードの説明。
第4回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第5回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第6回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第7回	カバー曲弾き語り。オリジナル作成	各自カバー曲弾き語りの練習。オリジナル作品の作成。
第8回	テスト	課題曲の弾き語りと自作曲の発表

学期末試験評価方法

出席30%授業態度40%試験30%課題曲の弾き語りと自作曲の発表をします。自作曲を書くのが目標ではありますが、一番大事なことは曲に興味をもつことです。授業が終了した後、オリジナル作りを楽しめる土台が出来ていれば良しとします。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォイストレーニング I	沼田梨花

科目概要
ヴォーカリストに必要なスキル、知識を身につける 発声を基礎から学ぶ 身体と表情筋のトレーニング・ストレッチ リズムトレーニング
到達目標
基礎発声を身につける(ナチュラルに鳴る声を出せるように鳴る) 基礎練習で磨いた声を楽曲での歌唱に活かせるようになる 人前で歌うことに慣れる

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンスと基礎練習	授業内容説明・インタビュー・課題曲について
第2回	呼吸について	基礎トレーニング 姿勢や腹式呼吸について説明と実践
第3回	呼吸について	基礎トレーニング 姿勢や腹式呼吸について説明と実践
第4回	発声について	基礎トレーニング 発声のメカニズム説明 課題曲練習
第5回	発声について	基礎トレーニング 課題曲練習
第6回	試験直前対策	基礎トレーニング 課題曲を一人ずつ歌唱・アドバイス
第7回	試験	課題曲の歌唱テスト
クォーター末試験評価方法		
出席状況や授業に取り組む姿勢・授業内容の理解度・成長度合い、テストの内容を総合的に見て評価する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習&口の形(母音)について	課題曲設定 第1クォーターの復習 顔の筋肉や口の形について説明と実践
第2回	口の形(母音)について	基礎トレーニング 表情筋トレーニング 課題曲練習
第3回	子音について	基礎トレーニング 子音について説明と実践 課題曲練習
第4回	子音について	基礎トレーニング 発声と口の形のつながりから課題曲へ 授業内容のミニテスト
第5回	音域を広げる為に	基礎トレーニング 発声の強化 夏休みの宿題について 課題曲練習
第6回	音域を広げる為に	基礎トレーニング 宿題発表 課題曲練習
第7回	試験直前対策	基礎トレーニング 課題曲を一人ずつ歌唱・アドバイス
第8回	試験	課題曲の歌唱テスト
学期末試験評価方法		
出席状況や授業に取り組む姿勢・授業内容の理解度・成長度合い、テストの内容を総合的に見て評価する。		

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォイストレーニングⅡ	沼田梨花

科目概要
発声を基礎から学ぶ 身体と表情筋のトレーニング・ストレッチ リズムトレーニング 春学期に行っていたトレーニングの時間を増加。歌唱についての説明を細かく行っていく
到達目標
歌唱力(テクニック)や表現力を上げる 日本語の曲以外に、洋楽にも慣れる

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習	基礎トレーニング 春学期の復習 課題曲設定
第2回	音域を広げる為に	基礎トレーニング強化(高音と姿勢について) 課題曲練習
第3回	音域を広げる為に	基礎トレーニング強化(高音と姿勢について)) 課題曲練習 授業内容のミニテスト
第4回	発声からメロディー	基礎トレーニング強化(特に発声と滑舌のつながりについて) 課題曲練習
第5回	メロディーから歌詞へ	基礎トレーニング強化(特に発声と滑舌のつながりについて) 授業内容のミニテスト 課題曲練習
第6回	試験直前対策	基礎トレーニング 課題曲を一人ずつ歌唱・アドバイス
第7回	試験	課題曲の歌唱テスト
クォーター末試験評価方法		
出席状況や授業に取り組む姿勢・授業内容の理解度・成長度合い、テストの内容を総合的に見て評価する。		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	洋楽について	基礎練習 課題曲の設定 第3クォーターの復習 洋楽の為の予備練習
第2回	課題曲に慣れる	基礎練習 冬休みの宿題について 課題曲練習
第3回	課題曲に慣れる	基礎練習 宿題発表 課題曲練習
第4回	テクニックについて	基礎練習 声のグラデーション 課題曲練習
第5回	テクニックについて	基礎練習 ダイナミクスについて 課題曲練習
第6回	テクニックについて	基礎練習 様々なフレージングにチャレンジ 授業内容のミニテスト
第7回	試験直前対策	基礎トレーニング 課題曲を一人ずつ歌唱・アドバイス
第8回	試験	課題曲の歌唱テスト
学期末試験評価方法		
出席状況や授業に取り組む姿勢・授業内容の理解度・成長度合い、テストの内容を総合的に見て評価する。		

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ダンス&パフォーマンス I	青井智佳子

科目概要

音楽がそこにある時に、自然と身体が動き、揺れる、そんな事が出来る様になる為の科目です。ステージでカッコよくパフォーマンス出来るように、基本的なステップや動きを練習します。毎回の授業で一定のメニューでウォーミングアップや、ストレッチを行います。これらを覚えると、普段の自分のコンディション作りやその確認が出来るようになります。

到達目標

基本的なステップや動きを練習して、自分の中の引き出しに入れてもらいます。そして、慣れてきたら、その引き出しに保存されているネタから自分で様々に引き出してきて自由に踊れる、音楽に乗れる様にして行くことを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業を受けるうえでの決まり事を含め、説明を行います。もちろん初回から体を動かして行きます。後半はリズム取りです。
第2回	ウォーミングアップについて	メニューの中で、主に上半身のほぐし方、ストレッチ方法等を学んで行きます。後半はリズム取りです。
第3回	下半身のストレッチ	足の指から腰あたりまでのストレッチの説明を行います。後半はリズム取り、ステップの基礎などを行います。
第4回	プリエについて	骨盤の意識の仕方、軸の説明を行います。後半はリズム取り、ステップの基礎を行います。
第5回	アイソレーションについて	アイソレーションの考え方、それがどのように必要なかを説明していきます。後半はリズム、ステップ練習です。
第6回	ウォーミングアップメニューのおさらい	試験範囲なので、細かく順を追ってカウントで動きを説明して、グループになって練習し覚えて行きます。
第7回	テスト	ウォーミングアップ、ステップなど、授業で行った範囲内で、実技試験します。

クォーター末試験評価方法

ウォーミングアップのメニューをしっかり覚えればそれだけ点数は高くなりますが、欠席や遅刻などによる減点もありますので、テストの点数がそのまま成績となるわけではありません。授業態度も評価されます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	簡単で短めの振付をし、踊って行きます。
第2回	ダンスの正確さ	ポージングを中心に、身体をどのように使うか、姿勢などのポイントを話して行きます。
第3回	ポージングで踊る	ポージングが決まると、それをただ繋げただけでもはやダンスになるということを話して行きます。
第4回	アイソレーションで踊る	アイソレーションを使って音楽に乗ることを行っていきます。
第5回	ステップの基礎	リズム取りのおさらいをして行きます。
第6回	ダンスの振り付け	毎回少しずつ進む振付の押さえてほしいポイントの説明をして行きます。
第7回	ダンスの振り固め	テスト範囲のダンスをたくさん練習します。
第8回	テスト	ダンスの実技テストです。一人ずつ行います。

学期末試験評価方法

欠席、遅刻、見学による減点、皆勤の場合は点数を加えます。ダンスの正確さ、アイソレーションやリズム取りの正確さ、またダンスのフィーリングの良さなどが、出せたかどうかで評価されます。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ダンス&パフォーマンスⅡ	青井智佳子

科目概要

春学期で身に着けたスキルと体カアップをもとに、振付も少し長くなっていきます。自己表現の手段の一つであるダンスを使って自分をよりかっこよく見せ、ステージでこうありたいと言う、自分のイメージに近づけていく事を行っていきます。

到達目標

ベースにあるリズムを一定に保ちながら、身体のいろんな部分をバラバラに動かして、「音楽が体を通っている」と言う感覚が身につくことを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の思い出	学び終わっている事の確認、思い出しを行います。
第2回	アイソレーションで乗る	アップのリズムの刻みながら首や肩、腰のアイソレーションを使って、フィーリングを出す方法を学びます。
第3回	乗りながら歩く事の応用	アイソレーションを使いながらリズムを取り、ウォーキングする事を学びます。
第4回	乗りながら歩く	より全身で乗り、グルーブ感を出す練習に入ります。
第5回	ステップ	今までやってきたステップの応用に入ります。
第6回	ダンスの振り付け	ステップを使ったダンスの振り付けを進めます。グループに分かれてお互いの良いところを見つけ情報共有します。
第7回	テスト	ダンスの実技です。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さ、踊り方、リズム、リラックスできているかどうかをよく見ます。欠席、遅刻、見学、授業態度による減点がありますので注意してください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自己表現	自己表現の手段としてのダンスを歌と繋げて行きます。
第2回	自己表現(喜怒哀楽)	喜怒哀楽を身体で表すとどうなるか、ディスカッションを含めながら講義していきます。
第3回	表現の多様性	一定の縛りの中で、表現してもらいます。リズムを崩さず自分の表現を取り入れる練習に入ります。
第4回	ダンスの振り付け	ダンスの振り付けに入ります。自分でステップを考えて音楽に乗る練習もしていきます。
第5回	振付の確認	前回のおさらいをしながら更に振付を進めます。
第6回	アイソレーションの応用	前回までの振り付けを踊り、それがもっとダンスに見えてくるにはどうしたらよいのかを説明して行きます。
第7回	ダンスの固め	テスト範囲を何度も練習し、見せ方を研究してもらいます。
第8回	テスト	一人ずつの実技です。

学期末試験評価方法

授業で口頭で話をしているポイントを注意深く聞いているかどうかをよく見ます。振りの正確さと同じくらい、フィーリングの良さも評価します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ステージング I	澄 淳子

科目概要

ステージでどうありたいか、自分を演出してみます。自分が一番ステージで大切だと思っている事を浮き彫りにします。まずは、どうありたいかを具体的にイメージする事を習慣化させます。歌手としての力、想像力、楽器としての身体ステージ上での身体の使い方等と手に入れられない限り、歌好きの一人にすぎない事を心にきざんでもらいます。

到達目標

パフォーマンスに必要な物を具体的に把握すること。
楽器としての身体の大切さを痛感する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	科目の紹介	ステージ上で一番必要なものを発表していきます
第2回	自己紹介	自分が述べた必要とするものをふまえつつ自己紹介
第3回	パフォーマンス	早速、歌唱に入ります。自分のあげたステージ上で必要なものに留意しながら
第4回	パフォーマンス	なりたい自分を邪魔しているものを提示していきます
第5回	パフォーマンス	他の生徒のパフォーマンスもプロデューサー目線で見てみます
第6回	パフォーマンス	感想やアドバイス、パフォーマー以外も参加していきます
第7回	パフォーマンス	思い通りの自分か？また思っているのか？問いかけます

クォーター末試験評価方法

『理想のステージ』をレポートで提出してもらいます。自分がステージ上でどうありたいかを自分自身に確認させてもらいます。どこまで自分のイメージを育てているかを評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	身体のありよう	身体のありようが重要であることを集中的に学びます
第2回	身体のありよう	話し声と歌い声もチェックします
第3回	パフォーマンス	二人一組になって歌い合います。だれにうたっているのかも考えます
第4回	パフォーマンス	二人一組になって歌い合います。伝えることから始めます
第5回	パフォーマンス	歌は、語れ のとおり、かたってみます
第6回	パフォーマンス	二人から客席に ステージ上でどう語るかを学んでいきます
第7回	パフォーマンス	だれにどうつたえるか、あらためて曲の解釈も問われます
第8回	パフォーマンス	身体を使いながら曲の中に存在できるか

学期末試験評価方法

「今の自分に必要なもの、手に入れたいものをレポートしてもらいます。」もう一度なによりフォーカスをあてていくのか自分で確認できているのかを評価します。また自分の学習態度が必要なものを得る為に向かっているのか自らに問ってもらいます。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ステージングⅡ	澄 淳子

科目概要

レポートで提出した「今自分に必要なもの」このことに焦点をあて、そのための曲を選んで歌って行きます。自分の良さにも着目しつつ、自分の魅力を育てていきます。また曲の解釈を深めていきます。

到達目標

曲の解釈を深め、歌う前に言うべきであろうセリフを自分で作る。
歌の背景の理解とステージの上で曲の空気をまとえるようにします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パフォーマンス	各自のレポートをチェックしながら、どうしたら必要なものが手に入るかを探って行きます
第2回	パフォーマンス	各自のレポートをチェックしながら、どうしたら必要なものが手に入るかを探って行きます
第3回	パフォーマンス	自分のカラーを決めて少し演じてみましょう
第4回	パフォーマンス	自分のカラーを決めて少し演じてみましょう
第5回	パフォーマンス	自分のカラーを決めて少し演じてみましょう
第6回	パフォーマンス	自分の可能性を広げていきましょう
第7回	パフォーマンス	自分の可能性を広げていきましょう

クォーター末試験評価方法

自分が歌う曲のミュージックビデオの案をなるべく具体的に書いて行く。曲の解釈や想像力を鍛えるためにレポートを提出、どれだけ自分の理想とむきあえるかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パフォーマンスプラン	自分の書いたビデオ案を教室で実現させていきます
第2回	パフォーマンス	曲の前にふさわしいセリフを言ってから歌いいただきます 曲の解釈を深めていきます
第3回	パフォーマンス	ビデオに撮ります 照明もつかう
第4回	パフォーマンス	ビデオに撮ります
第5回	パフォーマンス	ビデオに撮ります
第6回	パフォーマンス	ビデオに撮ります
第7回	ビデオチェック	自分の有り様をチェックします
第8回	ビデオチェック	自分の有り様をチェックします

学期末試験評価方法

セリフ+歌のパフォーマンスを評価
『自分のパフォーマンスの特徴、魅力』をレポート提出。
一年が経ち自分のパフォーマンスを確立してきているでしょうか。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ディクシオン I	橋北哲哉

科目概要

ディクシオンは声と言葉の表現力を伸ばす授業です。数ある楽器の中でも、言葉を伝える事が出来るのはヴォーカルだけ。
発音別の発声と滑舌、歌詞分析、リズムリンケージ、MC、演技パフォーマンス等を総合的に向上してヴォーカリスキルをアップさせましょう。

到達目標

歌詞の分析力アップで表現に奥行きを与え、様々な発音、グルーブ、滑舌スピードでも歌える事で歌唱の自由度を高めましょう。リズムリンケージでは歌唱中の不具合を解消します。MCは観客とのコミュニケーションを図り、演技に向きあうことで個性的な表現を確立します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MC	デビューした時に想定されるTVやラジオのメディア出演では、いったい何を話すべき？大勢の前でのMC体験です。
第2回	J-POP/洋楽研究	自分が表現したいと思うジャンルを歌って紹介。互いの音楽的趣向や熱意が伝わる刺激的な瞬間です。
第3回	滑舌	滑舌の仕組みとトレーニング方法を学びます。口腔内のメカニズムを学んで歌唱力アップにつなげましょう。
第4回	J-POP/洋楽研究	ヒット曲に隠された歌詞の魅力に迫ります。ひねりを理解するともうひとつの真実が見えてくるかもしれません。
第5回	リズムリンケージ	一定のテンポでリズムを掌握する方法。グルーブとは？はねる？リズムの基本理解と技術アップを図ります。
第6回	洋楽研究	洋楽の楽しみ方を学びます。英語曲をより身近に感じて楽しんで歌う習慣を身につけましょう。
第7回	試験	クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

クォーター末試験評価方法

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。
成績評価の方法：試験項目(実技)20%、平常点(理解度、成長度、マナー)40%、出席・受講状況40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MC	聞き手が理解しやすいように、伝えたいことを順序良く話題を並べてトーク。但し制限時間内で行います。
第2回	表現力研究	歌唱時の表情は表現力に繋がります。参考映像から学べる表情と気持ちの伝え方の関係。歌唱に応用させましょう。
第3回	演技パフォーマンス	企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
第4回	演技パフォーマンス	読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
第5回	演技パフォーマンス	立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的視点からの演出が大切です。
第6回	MC	夏本番！季節感のある話題でトーク。何を伝えたいかを意識してぶれずに最後までまとめましょう。
第7回	リズムリンケージ	発声、滑舌、音程等のコントロールをリズムにリンクさせることで歌唱基本技術の向上を図ります。
第8回	試験	クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

学期末試験評価方法

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。
成績評価の方法：試験項目(実技)20%、平常点(理解度、成長度、マナー)40%、出席・受講状況40%

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ディクシオンⅡ	橋北哲哉

科目概要

言葉を使ってアートするヴォーカリストは舌、唇、顎をいつでも自由自在に扱えることで感動的な演出が可能になります。秋学期はより進んだ内容で各技術を鍛えます。また、授業の取り組み方も「吸収して学ぶ」から「研究して学ぶ」スタンスに変化します。

到達目標

コンセプトを意識した作詞はアートの概念に向き合うことで独自性の高い表現力に繋がります。リズムリンケージでは歌唱時のウイークポイントの解消を目指します。また、演出、演技の研究を進展させることでアーティストとしてのパフォーマンスを更に高めます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	表現力研究	表現力に繋がる歌唱時の表情。参考映像から学べる表情と表現力。歌唱に応用させましょう。
第2回	演技パフォーマンス	企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
第3回	演技パフォーマンス	読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
第4回	演技パフォーマンス	立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的な演出が大切です。
第5回	J-POP研究	五感表現、季節感、ひねり。プロの作詞テクニックを学んで歌詞の表現を2ランクアップ。
第6回	J-POP研究	自分で作詞することで歌詞表現は確実に高まります。実践的なテーマに沿って作詞してみましょう。
第7回	試験	クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

クォーター末試験評価方法

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。
成績評価の方法：試験項目(実技)20%、平常点(理解度、成長度、マナー)40%、出席・受講状況40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	滑舌	オリジナル早口言葉フレーズ特集。正確かつスピーディに発音して苦手を得意に変えましょう。
第2回	リズムリンケージ	リズム＋発声＋滑舌＋音程コントロールのトレーニング。歌唱時の滑舌メカニズムをより円滑化します。
第3回	MC	時節に困んだ話題を時間制限内でまとめるトーク。今までの経験を生かしましょう。
第4回	演技パフォーマンス	企画立案、キャスティング。演劇やミュージカル等を自らが演じることで言葉と表情の表現力が高まります。
第5回	演技パフォーマンス	読み稽古。覚えた台詞を基にした声だけの演技です。表現のメリハリや間合いを工夫して演技の骨組みを作り上げます。
第6回	演技パフォーマンス	立ち稽古、通し稽古。立ち位置や向きを工夫した演技の実演を行います。自己満足では無い客観的な演出が大切です。
第7回	総集編	総集編、Q&A、リクエスト。より専門的な内容、もう一歩進んだ研究内容の授業。
第8回	試験	クォーターの授業内容から出題します。必要な技術を確認して整理する為にも全力で取り組みましょう。

学期末試験評価方法

出席数と授業への前向きな受講内容を最も評価します。
成績評価の方法：試験項目(実技)20%、平常点(理解度、成長度、マナー)40%、出席・受講状況40%

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォーカルアンサンブル I	荒井善博

科目概要
ヴォーカルアンサンブルクラス I では、複数人での声の合わせ方、ハモリ方を学び、最終的にはオリジナルコーラスアレンジなども実践していきます。 春学期は個々のパートの役割を深く理解し、アンサンブルアプローチの仕方を学びます。
到達目標
音楽理論と共にコードも理解し、それぞれが曲の中で自由にコーラスを組めるスキルを身につけます。 グループを組みアンサンブル演奏をしてもらいます。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得1	発声 譜面の読み方 コード理論 を学びます。 学生は楽譜、ノート、筆記用具を必須で持ってきて下さい。
第2回	基礎力習得2	基礎力習得1の復習をしつつ、理解を深めます。 学生は楽譜、ノート、筆記用具を必須で持ってきて下さい。
第3回	アンサンブル1	譜面を使い、課題曲をアンサンブルします。 課題曲: seasons of love
第4回	アンサンブル2	アンサンブル1の続きを進めます。 パートを理解し、歌えるようにします。
第5回	アンサンブル3	アンサンブル2の続きを進めます。リズム、ブレスを全体で合わせ、より高いレベルで歌唱できるようにしていきます。
第6回	アンサンブル4	アンサンブル発表に向けて、パフォーマンス力を向上するためクラス全体で課題曲のリハーサルを進めます。
第7回	実技試験	第1～6回の集大成として、課題曲をクラス全体で演奏します。

クォーター末試験評価方法
出席率を第一に評価します。50% その他基礎の理解度。20% 作業達成率や取り組み姿勢など。30%を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得 + α	1クォーターでの基礎力を復習しつつ、知識をアンサンブルに活かせるよう、さらに理解を深めます。
第2回	アンサンブル2-1	少人数でグループ分けして、課題曲1 YELL (いきものがかり) 譜読みをします。
第3回	アンサンブル2-2	アンサンブル2-1の続きを進めます。 自身のパート理解し、歌えるようにします。
第4回	アンサンブル2-3	アンサンブル2-2の続きを進めます。グループの中でリズム、ブレスを調整します。
第5回	アンサンブル2-4	課題曲2 曲目 (進めれば) because of who you are 譜読みをします。
第6回	アンサンブル2-5	課題曲1と課題曲2を平行して練習します。
第7回	アンサンブル2-6	アンサンブル発表に向けて、パフォーマンス力を向上するため課題曲のリハーサルを進めます。
第8回	実技試験	第1～7回の集大成として、課題曲を演奏します。

学期末試験評価方法
出席率を第一に評価します。50% その他基礎の理解度。グループごとの演奏のまとまり20% 作業達成率や取り組み姿勢など。30%を総合的に評価します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブルⅡ	荒井善博

科目概要
アンサンブルをする上で、より実践的な内容を学びます。 アレンジ作業、リハーサル作業等を学生主体で進めてもらい 春学期で培った基礎力を元に個々が実践で応用できるようにします。
到達目標
自由にアレンジしグループごとにアンサンブルを仕上げてもらえるようにします。 メンバーとのディスカッションを通して、ひとつの曲を仕上げていく過程、さまざまな角度、視点からのアレンジをアンサンブルを経験します。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルアレンジ1	グループ分けをし、課題曲のコードとメロディーを基にコーラスアレンジを進めます。課題曲トライエブリシング。
第2回	アンサンブルアレンジ2	グループごとに、アレンジを講師と共に進めてもらいます。
第3回	アンサンブルアレンジ3	アレンジが整ってきたら、どのように演奏するかもグループでアイデアを出し合います。
第4回	アンサンブルアレンジ4	グループごとにリハーサルを進めます。
第5回	アンサンブルアレンジ5	引き続き、グループごとにリハーサルを進めます。
第6回	アンサンブルアレンジ6	発表に向けて最終確認をしつつ、リハーサルを進めます。
第7回	アンサンブルアレンジ試験	第1～6回の集大成として、課題曲をグループごとに演奏します。

クォーター末試験評価方法
出席率を第一に評価します。50% グループとしてのまとまり、演奏力。 個々の積極性などを総合的に評価します。50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルアレンジ1	グループ分けをし、グループごとに課題曲を決めてもらいます。コーラスアレンジを進めます。
第2回	アンサンブルアレンジ2	グループメンバーでコーラスアレンジ内容を進めていきます。
第3回	アンサンブルアレンジ3	引き続き、グループでリハーサルを進めます。
第4回	アンサンブルアレンジ4	<中間報告会>グループの現状進捗を発表し、改善点など模索しながらリハーサルを進めます。
第5回	アンサンブルアレンジ5	引き続き、グループでリハーサルを進めます。
第6回	アンサンブルアレンジ6	発表に向けてパフォーマンスを詰めてリハーサルを進めます。
第7回	アンサンブルアレンジ7	発表に向けて最終確認をしつつ、リハーサルを進めます。
第8回	アンサンブルアレンジ試験	第1～7回の集大成として、課題曲をグループごとに演奏します。

学期末試験評価方法
出席率を第一に評価します。50% アレンジ力、歌唱力、パフォーマンス個々がグループへ積極的に参加できているか、 総合的に評価します。50%

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルジャンル概説	梶本芳孝

科目概要

前半ではロック／ポップスのルーツやジャズについて曲を試聴しながら見ていきます。後半では邦楽洋楽の様々なアーティストのヴォーカル・スタイルを、そして時間があればコードとメロディの関係といった作曲テクニックも授業に取り入れたいと思っています。

到達目標

最近インターネットなどのせいで、自分の好きな曲しか聴かなくても済むようになりました。この授業を受けて、みんなが今まで聴いたことがないだろうけど是非聴いておいた方がいいと思う曲を聴いて、少しでも幅広い知識が身に付けてくれればと思っています。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Pop/Rockの原点・前半	J-Popも含めた現在のポピュラー・ミュージックの原点を探っていきます。
第2回	Pop/Rockの原点・後半	60年代から現在に至るまでのポピュラー・ミュージックの変遷を曲を聴きながら見ていきます。
第3回	ジャズ・前半	時代順に重要と思われるジャズの大きな流れを抜粋して聴いていきます。
第4回	ジャズ・後半	知っておいた方がよいと思われる代表的なジャズスタイルを見ていきます。
第5回	繰り返しのメロディ/讃美歌の練習	まずメロディのもっとも基本である「繰り返しを使ったメロディ」についてです。／「あめにはさかえ」の練習
第6回	メリハリのあるメロディ/讃美歌の練習	メロディにメリハリをつける方法について見ていきます。／「あめにはさかえ」の練習
第7回	テスト	「あめにはさかえ」をパートに分けて歌います。

クォーター末試験評価方法

採点基準は一応テスト50%、出席40、平常点10となっていますが、前期は賛美歌「あめにはさかえ」のコーラスに参加することが試験となります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌詞を作る	決められた時間内で最低1つのセクションの歌詞を作ります。もちろんいくつかコツを紹介します。
第2回	歌詞のメロディとコードをつける	先週作った歌詞に2種類の異なるジャンルでメロディとコードをつけていきます。
第3回	いろんなリズムに慣れる	8分音符はもちろん、最近増えてきた16分音符のリズムを速く読む練習をします。
第4回	ヴォーカル・スタイル 1	邦楽／洋楽それぞれから個性あるアーティストを選んで、そのスタイルや歌い方を見ていきます。
第5回	ヴォーカル・スタイル 2	同じアーティストが曲によって歌い方を変えている例などを見ていきます。
第6回	ハモリ	定番の3度や6度から4度、5度、同じ音を使ったハモリなどの練習です。参考曲も視聴します。
第7回	いろんな歌い方に挑戦！	課題曲「一つ星」を使って異なるジャンルの演奏に対して歌い方を工夫する練習です。テストのリハーサルになります。
第8回	第8回目の授業(試験)テーマ	課題曲「一つ星」を最低2種類の異なるジャンルで、ヴォーカル・スタイルを考えて歌います。

学期末試験評価方法

採点基準は課題曲を最低二つの異なるジャンルで歌えば(出席100%の場合)85点になります。ここから欠席毎に2点マイナス、逆にジャンルを増やす毎に5点プラスになります。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	スタッフワーク I	石井 為人

科目概要

フレッシュライブ企画と実践。企画に必要な事柄の説明。選曲の趣旨。P.A(Personal Adress)の説明と使用法。マイクの取り扱い方、マイクスタンドの設定の仕方、ミキサーの使用法、フェイダーによるバランスの取り方、リハーサルに必要な案件の説明。リハーサルのスケジュールの決め方、バンド譜の書き方、バンドとのコミュニケーションの取り方。など基本的な企画の作り方を教えます。

到達目標

フレッシュライブの趣旨を理解する、参加者のそれぞれの役割を理解しコミュニケーションをとる。選曲の趣旨を理解し観客を意識したプログラムを考える。参加者とのコミュニケーションをとりつつ本番までの変化していく企画を共有する。リハーサルの日時、場所を決めバンド譜、照明案を考え演出を構築する。リハーサルに必要な機械の使用法を覚える。など本番を迎えるに必要な事柄の理解と実践を目標としています。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フレッシュライブ企画 1(初級)	授業内容の説明。ライブの趣旨や企画に必要な事柄の説明。マイクの取り扱い、マイクスタンドの設定、ミキサーの使用法の説明です。
第2回	フレッシュライブ企画 2(初級)	フレッシュライブの為の選曲のコンセプトの説明です。カラオケとライブの違いや観客を意識した選曲とは何かを考えます。
第3回	機材の使い方1(初級)	リハーサルや本番で使う機材の説明です。まずはマイクについて、ダイナミックマイクの特徴、使い方、接続の仕方を覚えます。
第4回	機材の使い方2(初級)	機材の使い方1で学んだことを使いつつミキサーへの接続、ミキサーのオペレーションを覚えます。
第5回	リハーサルの基礎1(初級)	機材の使い方2で覚えたことをリハーサルの実践で活用します。その際に起こる事に対処する知識を学びます。
第6回	リハーサルの基礎2(初級)	リハーサルのスケジュールの作成。選曲の見直し。曲順のたたき台を作ります。一歩ずつ本番のシュミレーションをします。
第7回	ライブの構成案の作成。(初級)	ライブに参加する学生の個性や傾向をお互いに理解し、一時間半のステージをどの様に構築するかを考えます。

クォーター末試験評価方法

ライブの企画の初級編です。初めて覚える事が多いなか、いかに相手の事を考えながら全体を考えられるかが重要になります。加えて選曲、曲順、チーム分け、機材の使い方、スケジュールの立て方、クラス間のコミュニケーションの具体的な方法を考えて実行していけるかどうか、それぞれの学生の持っている才能や特徴をお互いに限られた時間の中で捉えていけるかが目標であります。出席50% 実技50%で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フレッシュライブ企画 1(中級)	1クォーターで練った企画を発展させていきます。今の時代の現場を考えながら独自の案を練り直し、修正を加えていきます。
第2回	フレッシュライブ企画 2(中級)	音楽のジャンルを考えて見ましょう。知らないジャンル、ルーツミュージック等より幅広く音楽を考えていきます。
第3回	リハーサル実践 1	リハーサルに必要な音源DATAの作り方をおぼえます。mp3、カラオケ、CDの音質のクオリティを体験します。
第4回	リハーサル実践 2	ステージングを考えながらのリハーサル実践を行います。立ち位置、パミリ、マイクをつかっのパフォーマンスを練習します。
第5回	リハーサル実践 3	曲順の最終見直し段階に入ります。オープニングからエンディングまでの流れを確認していきます。
第6回	バンドリハーサル	バンドとのコミュニケーションを行います。それぞれの曲のテンポ、構成などパフォーマンスと共に作っていきます。
第7回	ゲネプロ	本番を想定してのリハーサルを行います。バンドやオケの音出しの為のキューを確認します。
第8回	本番 ライブ当日	衣装、照明、MC、マイクの受け渡し、振り付け、モニターの音量確認、等これまで準備した事を確認してから、いよいよ本番です。

学期末試験評価方法

1クォーターで学んだ事の実践です。本番に至るまで様々なトラブルが予想されます。譜面の書き直し、振付の見直し、衣装と照明の関係、司会の内容等、多くの修正点を補正しながら如何に会場の観客との一体感を生み出すかが目的です。それぞれの役割を理解し行動しているかが評価の対象です。出席50% 実技50%で評価します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	スタッフワークⅡ	石井 為人

科目概要

クリスマスライブ企画と実践。企画に必要な事柄の説明。選曲の趣旨。P.A(Personal Adress)の説明と使用法。マイクの取り扱い方、マイクスタンドの設定の仕方、ミキサーの使用法、フェイダーによるバランスの取り方、リハーサルに必要な案件の説明。リハーサルのスケジュールの決め方、バンド譜の書き方、バンドとのコミュニケーションの取り方。春学期からの応用編です。

到達目標

クリスマスライブの趣旨を理解する、参加者のそれぞれの役割を理解しコミュニケーションをとる。選曲の趣旨を理解し観客を意識したプログラムを考える。参加者とのコミュニケーションをとりつつ本番までの変化していく企画を共有する。リハーサルの日時、場所を決めバンド譜、照明案を考え演出を構築する。リハーサルに必要な機械の使用法を覚える。など本番を迎えるに必要な事柄の理解と実践を目標としています。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クリスマスライブ企画 1	クリスマスライブのコンセプトについて話し合います。サブタイトルについても話し合い、選曲のアイデアを出していきます。
第2回	クリスマスライブ企画 2	クリスマスというイベント性、季節などを考えながら選曲の絞り込みをしつつサブタイトルを決めていきます。
第3回	機材の使い方1(中級)	春学期で学んだ機材の使い方を復習しながら更にイコライザー、ハウリング防止の為の対策を覚えます。
第4回	機材の使い方2(中級)	第3回で学んだ事をベースに空間系のエフェクトの使い方、ミキサーのエフェクトセンドリターン回路を覚えます。
第5回	リハーサルの基礎1(中級)	機材の使い方覚えたことをリハーサルの実践で活用します。その際に起こる事に対処する知識を学びます。
第6回	リハーサルの基礎2(中級)	リハーサルのスケジュールの作成。選曲の見直し。曲順のたたき台を作ります。一歩ずつ本番のシュミレーションをします。
第7回	ライブの構成案の作成。(中級)	ライブに参加する学生の個性や傾向をお互いに理解し、一時間半のステージをどの様に構築するかを考えます。

クォーター末試験評価方法

ライブの企画の中級編です。初めて覚える事が多いなか、いかに相手の事を考えながら全体を考えられるかが重要になります。加えて選曲、曲順、チーム分け、機材の使い方、スケジュールの立て方、クラス間のコミュニケーションの具体的な方法を考えて実行していけるかどうか、それぞれの学生の持っている才能や特徴をお互いに限られた時間の中で捉えていけるかが目標であります。出席50% 実技50%で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クリスマスライブ企画 1(中級)	1クォーターで練った企画を発展させていきます。今の時代の現場を考えながら独自の案を練り直し、修正を加えていきます。
第2回	クリスマスライブ企画 2(中級)	実際に行われているクリスマスライブを参考に、独自のコンセプトを練り直します。ストーリー性なども考えて見ます。
第3回	リハーサル実践 1	選曲した楽曲を必要に応じてパート分けしていきます。コーラスなどのアレンジも考えていきます。
第4回	リハーサル実践 2	お互いのリハーサルを記録し、気づいた事、改善できる事を見つけ、具体的なアドバイスをを行います。
第5回	リハーサル実践 3	曲順の最終見直し段階に入ります。オープニングからエンディングまでの流れを確認していきます。
第6回	バンドリハーサル	バンドとのコミュニケーションを行います。それぞれの曲のテンポ、構成などパフォーマンスと共に作っていきます。
第7回	ゲネプロ	本番を想定してのリハーサルを行います。バンドやオケの音出しの為のキューを確認します。
第8回	本番 ライブ当日	衣装、照明、MCマイクの受け渡し、振り付け、モニターの音量確認、等これまで準備した事を確認してから、いよいよ本番です。

学期末試験評価方法

1クォーターで学んだ事の実践です。本番に至るまで様々なトラブルが予想されます。譜面の書き直し、振付の見直し、衣装と照明の関係、司会の内容等、多くの修正点を補正しながら如何に会場の観客との一体感を生み出すかが目的です。それぞれの役割を理解し行動しているかが評価の対象です。出席50% 実技50%で評価します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	プレゼンテーション I	高松 俊

科目概要

ヴォーカリストにとって自己表現は非常に重要です。多くの人に自分の伝えたいことをアピールする訓練として一人ずつプレゼンテーションを行っていきます。さらに、ミュージック・ビジネスの仕組みや内容を理解し、プロの世界の現状を把握して個性とテクニック、プロモーション戦略の必要性等々、ビジネスとしての音楽の定義を掘り下げて考えていきます。

到達目標

自分の考えを明確に人に伝えるということが確実にできるようにする。現状を把握して時分の立ち位置や目標を客観的に判断できる能力を身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業概要説明	アーティストとしての自己表現
第2回	自己表現実習1	人に伝えたいことを効果的にプレゼンしていく
第3回	自己表現実習2	人に伝えたいことを効果的にプレゼンしていく
第4回	自己表現実習3	人に伝えたいことを効果的にプレゼンしていく
第5回	自己表現実習4	人に伝えたいことを効果的にプレゼンしていく
第6回	自己表現実習5	人に伝えたいことを効果的にプレゼンしていく
第7回	試験	小論文形式

クォーター末試験評価方法

出席点40% 平常点40% 試験20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プロの音楽ビジネス1	音楽業界の全体像
第2回	プロの音楽ビジネス2	制作、宣伝、販促、その他
第3回	プロの音楽ビジネス3	音楽出版社、マネージメント、権利関係基礎知識
第4回	プロの音楽ビジネス4	著作権基礎 1
第5回	プロの音楽ビジネス5	著作権基礎 2
第6回	現状と将来	混乱期である音楽業界の現状と未来の展望
第7回	総括	自己目標設定etc
第8回	試験	小論文形式

学期末試験評価方法

出席点40% 平常点40% 試験20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	音楽理論 I	斉藤かんじ 他

科目概要

20世紀に出現し現在に至るまで、商業音楽の最前線にあるポップミュージック。そのコード理論を中心にポップミュージックを理論的にアナライズし、自己の作品制作、楽器演奏に活用できるであろう知識を学びます。テキストとして「ポピュラー音楽基礎講座」を使用し、春学期では最も基礎となる項目を学習します。

到達目標

2音間の音程から和音・コードの響きが生まれていること、コードネームからその構成音を把握できること、そして各コードの機能を理解し、基本的なコード進行のヴァリエーションを習得することを到達目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	記譜の基礎	五線譜、譜表、音名、音部記号、拍子記号、音符、休符、臨時記号、などの記譜の基礎。
第2回	スケールと調号	メジャー／マイナー・スケールと調号について。
第3回	音程1	完全音程、長音程、短音程、減音程、増音程などの音程の種類とその仕組み。
第4回	音程2	複合音程、音程の転回について。
第5回	コード1	トライアド(三和音)とセブンスコード(四和音)の構造。
第6回	コード2	コードトーンとテンションノートについて。
第7回	クォーター末試験	筆記試験。(調号、音程、基本的コードの知識を中心として出題)

クォーター末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード3	コードの転回形(インバージョン)、ボイスリーディング、オープン/クローズ・ボイスイングについて。
第2回	ダイアトニック・コード1	ダイアトニックコードの種類と構造、その汎用性について。
第3回	ダイアトニック・コード2	ダイアトニックコードの機能と代理機能について。
第4回	ダイアトニック・コード3	ダイアトニックコードの代理機能を利用したりハモニゼーションについて。
第5回	ルートモーション1	5度進行、ドミナントモーション、II-V-Iについて。
第6回	ルートモーション2	4度進行、3度進行、順次進行について。
第7回	ケーデンス	コード進行における様々な終止形について。
第8回	学期末試験	筆記試験。(1・2クォーターで学習した内容と用語について出題)

学期末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時に勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	斉藤かんじ 他

科目概要

春学期に学習した三和音と四和音の構造、そしてメジャー・キーにおけるダイアトニック・コードのハーモニーを軸に、さらにそのボキャボラリーと知識を増やしていきます。春学期同様にテキストとして「ポピュラー音楽基礎講座」を使用、秋学期も常に基礎にレビューしながら学習していきます。

到達目標

春学期以降学習してきた基礎理論のより確実な習得と、おそらくコード理論の中で最重要項目であろうセカンダリードミナントセブンスとモーダルインターチェンジの理論的仕組みが理解出来ることを到達目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セカンダリードミナント1	セカンダリードミナントの仕組みについて。
第2回	セカンダリードミナント2	セカンダリードミナントを用いたⅡ-Vの進行について。
第3回	セカンダリードミナント3	セカンダリードミナント、テンションノートを用いたよりリッチな響きと進行について。
第4回	マイナー・キーのダイアトニック・コード1	ナチュラルマイナー・スケールのダイアトニックコードと機能について。
第5回	マイナー・キーのダイアトニック・コード2	ハーモニックマイナー・スケール、メロディックマイナー・スケールのダイアトニックコードと機能について。
第6回	マイナー・キーのコード進行	3種類のマイナー・スケールのダイアトニックコードを用いたコード進行について。
第7回	クォーター末試験	筆記試験。(セカンダリードミナント、3種類のマイナー・スケールを中心に)

クォーター末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	モード・モーダルな曲	教会旋法及びモードジャズの基礎的知識と作曲技法について。
第2回	モーダル・インターチェンジ1	同主調他のマイナー・スケールからの代表的な借用和音とコード進行について。
第3回	モーダル・インターチェンジ2	同主調他のマイナー・スケールからの代表的な借用和音とコード進行について。
第4回	モーダル・インターチェンジ3	ドリアン、ミクソリディアン、リディアンなどのモードからの代表的な借用和音とコード進行について。
第5回	コードスケール1	ドミナントセブンス、セカンダリードミナントコード使用時に使うことの出来るコードスケールについて。
第6回	コードスケール2	モーダル・インターチェンジ使用時に使うことの出来るコードスケールについて。
第7回	ブルース	ブルースのフォーム、ハーモニー、メロディについての考察。
第8回	学期末試験	筆記試験。(春学期、秋学期を通して学習した知識、用語について)

学期末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
春	スコアリーディング I	松永加津子 他

科目概要
音楽の基礎知識を学びます。簡単な楽典、新曲視唱、聴音を学習していきます。譜面が読めて、理解し、書けるようになるための授業です。しっかりと学習してほしい、大切なクラスです。コツコツ勉強して、実力を高めてください。
到達目標
音の読み方、譜面を書くために必要な記号、音符の長さ、曲の進行に関する記号など、基礎の基礎からスタートします。わかっているつもりにならず、初歩から確認しながらしていきます。2度、3度の音程の新曲視唱、同じく聴音も2度3度の音程から学習し、慣れていきます。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎プリント	音部記号、五線、小節線、音の読み方、記号、音符の長さ、拍子、音符の高さなど、基礎の基礎からスタートします。
第2回	基礎プリント	前回の復習+曲の進行を表す記号、音楽表記の記号など、譜面を読む、理解する、書くのに必要な記号を学びます。
第3回	楽典①・新曲視唱・聴音	毎回、簡単な楽典プリントを勉強します。少しずつ知識を増やし、譜面の理解力をつけましょう。
第4回	楽典②・新曲視唱・聴音	新曲視唱は何キーの曲か、主要3和音を考えてから歌っていきます。はじめは2度3度の音程の短い曲からスタートです。
第5回	楽典③・新曲視唱・聴音	聴音は、新曲視唱と並行して、同じ2度3度の音程の、2小節の短い聴音からスタートします。
第6回	楽典④・新曲視唱・聴音	毎回、楽典、新曲視唱、聴音を学習します。少しずつ高度になっていきますが、しっかり学習しましょう。
第7回	新曲視唱と聴音	一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(2~4小節)をします。

クォーター末試験評価方法
新曲視唱は、大きな声ではっきり歌えるかをチェックします。自信がなければ、ゆっくり歌っても大丈夫です。聴音は、短い小節をしっかり聞いて、分かるまでチャレンジしてもオッケー、やり方を覚えてください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典⑤・新曲視唱・聴音	4度5度音程の新曲視唱、聴音は8ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニングになります。
第2回	楽典⑥・新曲視唱・聴音	4度5度音程の新曲視唱、8ビートのイヤートレーニング、まずはリズム聴音からです。
第3回	楽典⑦・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、グループに分かれて、伴奏したりハーモニーを工夫したりして発表する形で歌います。
第4回	楽典⑧・新曲視唱・聴音	新曲視唱、毎回違うメンバーで相談して発表していきます。聴音は16ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニング。
第5回	楽典⑨・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、グループで工夫して発表していきます。16ビートのイヤートレーニングは、リズム聴音から。
第6回	楽典⑩・新曲視唱・聴音	新曲視唱、グループで練習していく事に慣れ、ハーモニーを楽しんでください。イヤートレーニングは、8、16両ビートで。
第7回	楽典⑪・新曲視唱・聴音	新曲視唱のグループ発表形式は今回でošimai。楽しく歌ってください。聴音もリズム聴音に慣れていきましょう。
第8回	新曲視唱と聴音	一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(4~6小節)をします。

学期末試験評価方法
新曲視唱の前に、歌う曲のキーと主要3和音を言えるようにしましょう。聴音は、まずリズム聴音をしっかり出来るようになるといいですね。

ヴォーカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	スコアリーディングⅡ	松永加津子 他

科目概要
秋学期は、譜面を読み、譜面を理解し、そして、譜面を書いていくスキルをアップさせていきます。4/4拍子の譜面の書き方、4/3拍子、8/6拍子はどう書くか、読みやすい譜面を作る勉強していきます。
到達目標
1オクターブまでの音程を歌ったり聴き取ったりします。新曲視唱では、クリスマスソングやラテンポップスにもチャレンジします。また、手拍子付き視唱も学習します。聴音では、シャッフルや16バウンスのビートの書き方なども学びます。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典⑫・新曲視唱・聴音	5度6度の新曲視唱、聴音は読みやすい4/4拍子の書き方で聴き取っていきます。
第2回	楽典⑬・新曲視唱・聴音	5度6度新曲視唱、4/3拍子と8/6拍子の聴音、書き方やリズムの取り方を考えましょう。
第3回	楽典⑭・新曲視唱・聴音	シャッフルのイヤートレーニング、まずリズム聴音でビート感に慣れ、シャッフルの表記の仕方も気をつけます。
第4回	楽典⑮・新曲視唱・聴音	7度1オクターブまでの音程の新曲視唱、シャッフルのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
第5回	楽典⑯・新曲視唱・聴音	16バウンスのイヤートレーニング、リズム聴音から始めて、16バウンスの表記も気をつけます。
第6回	楽典⑰・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、16バウンスのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
第7回	新曲視唱と聴音	新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

クォーター末試験評価方法
 新曲視唱は、音程がしっかりしているかをチェックしますが、大きい声で元気に歌うようにしてください。キーと主要3和音をしっかり答えられるように。聴音で聴き取ったフレーズを、移調したり、い1オクターブ下げたりします。これまで学習してきた楽典の成果を見せてください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典⑱・新曲視唱・聴音	新曲視唱はクリスマスソング、2声でハモってみましょう。聴音もゴスペル風なりズム聴音にチャレンジ。
第2回	楽典⑲・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、聴音も8小節の聴き取り方を練習していきます。
第3回	楽典⑳・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、これまでの旋律だけの斉唱に加えて、手拍子付き聴音にチャレンジしていきます。
第4回	楽典㉑・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き視唱、和音の聴音が新しい課題として入ってきます。
第5回	楽典㉒・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き聴音、和音の聴音など。
第6回	楽典㉓・新曲視唱・聴音	書くためのスキルアップとして、各拍子の書き方をもう一度復習して確認します。
第7回	楽典㉔・新曲視唱・聴音	様々なラテンポップスや、民謡などを、楽しんで視唱していきます。
第8回	新曲視唱と聴音	新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

学期末試験評価方法
 まず、譜面が読めること、理解すること。新曲視唱は一人ずつ行います。キーと主要3和音、しっかり答えましょう。その後全体で聴音。移調やオクターブの上げ下げ、身につけて欲しいスキルです。